

巻 頭 言

財団法人北海道脳神経疾患研究所が1986年（昭和61年）に北海道所管の特定公益増進法人として認可されて、1988年（昭和63年）に北海道脳神経疾患研究所医誌（通称 脳研医誌）の記念すべき第1巻が刊行されました。今回で第15巻の脳研医誌を発行出来ましたことは、偏に諸先生方の御指導の賜物と紙面をお借りして御礼申し上げます。創刊号を拝見しますと、石井昌三先生（当時順天堂大学学長）の巻頭言に始まり、当時55歳の父 中村順一による創刊のごあいさつが続いています。中村記念病院が世間に存在を認知されるようになり、若い医学生が次々と門を叩いた当時の病院の勢いが感じられます。論文執筆陣も、中川原譲二（現脳神経外科部長、脳卒中診療部長）、宇佐美卓（現中村記念南病院脳神経外科部長）、武田利兵衛（現中村記念南病院院長）、瓢子敏夫（現脳神経外科部長）、堀田隆史（現副院長）、大町英世（現麻酔科部長）、佐々木雄彦（現脳神経外科部長）等々、現在ではどこに出しても恥ずかしくない豪華メンバーが目次を飾り、当時の若々しい彼らの熱気が伝わってきます。第2巻以降は、中村記念病院以外の現在ご活躍中の先生方にも御執筆いただき今日に至っております。

北海道脳神経疾患研究所の前身は、1980年（昭和55年）に設立された北海道脳血管研究所です。臨床一筋の父にとりまして、長年の夢

であり理想であった研究施設の整った病院を作りたいという主旨で、現在の中村記念病院を開設する時に作られた研究所です。当時は脳卒中の外科の黎明期で、秋田県立脳血管研究センターや財団法人脳血管研究所附属美原記念病院が、脳卒中急性期の外科で一世を風靡していましたので、北海道にも同じような施設をと願って創設されたものです。脳血管研究所を更に発展させ、より公益性を高めるために財団法人にしたわけですが、ある時父に、脳血管障害だけではなく脳腫瘍などより広い範囲を含めるために財団の名前をどうしようかと相談されました。その時はそれほど重要なこととは考えなかったので、軽い気持ちで脳神経疾患研究所にしたらどうですかと答えましたところ、そのまま現在の少々聞き慣れない名前になってしまいました。脳神経研究所にした方がスマートだったかなとか、神経疾患研究所の方がスッキリしているかなとか思ったりもしますが、臨床を主に考えると、疾患を入れた方が基礎系の研究所との区別が明確ですし、日本ではneurosurgery を神経外科と訳さず敢えて脳神経外科と訳している以上、脳神経疾患研究所でやはり正解だったのかなと今でも感じています。脳神経に関する疾患すべてですから、脳神経外科、神経内科のあらゆる分野の疾患と整形外科の一部の疾患が含まれることとなります。

現在の北海道脳神経疾患研究所の主な活動内容としては、(1) 図書室の維持・管理 (2) ニセコカンファレンス、脳研セミナーなどの開催 (3) 研究室特に病理部 (4) 臨床データの整理・管理 (5) モービルMRI並びに地域における講演会の開催の五つがあげられます。それぞれの特筆すべき点としましては、(1) の図書室はNature, Scienceから看護関係の雑誌まで多岐に渡っていますが、脳神経関係では世界一で全ての雑誌が揃っており、他施設から多数の文献コピーの依頼が来ています。(2) ニセコカンファレンス、脳研セミナーにつきましては、これまでの講師陣の豪華さが自慢です。もしお声が一度もかかっていなかったら、自分が世間での評価はあまり高くないと考えて下さい。(3) 研究室では病理を中心に臨床研究を行っています。病理の迅速標本は摘出5分以内に完成し、顕微鏡のカメラから手術場のモニターにHEの組織像が写り術者にも組織を理解してもらいます。専門医試験前には受験生は毎日病理スライドで特訓され、当院の受験生の最も得意な分野は脳血管障害ではなく脳腫瘍の病理です。また、帯状疱疹などの診断は研究室のPCRで速やかに診断しています。(4) のデータ整理につきましては、脳卒中台帳やUCASの登録を担当しており、登録症例数は断トツのはずです。(5) モービルMRIの検診につきましては、北海道ならではの大変ユニークな検診事業で、毎年春から秋にかけて20町村程度巡回し講演会も行います。既に延べ3万名の方々がMRI検査を受けており、当院以外の病院にも多数患者様を紹介

しています。検診の一番の成果は啓蒙活動で、頭痛などの症状があると気軽に脳神経外科の病院を受診するようになったことだと思います。詳細については研究所の中村正文課長が今回執筆していますので御参照下さい。

北海道脳神経疾患研究所医誌の第15巻の刊行にあたり研究所の歴史とこれまでの実績を振り返りますと、改めて父の目指した医療の素晴らしさと、労苦を共にした諸先輩方の御苦労が偲ばれ胸が熱くなります。巻頭言を書いている現在の札幌は真冬の真っ盛りで寒さと大雪に見舞われています。脳研医誌を通じまして、北海道の広さ、冬の厳しさと、どうして北海道の脳神経外科や神経内科が本州と異なった独自の発展を遂げたのか、その一端でも御理解いただけたら幸でございます。後を引き継ぐものの責務として、年に一度の医誌の発行を含む事業の継続と研究所の更なる発展のために、私ども一丸となりまして全力を尽くしますので、皆様方におかれましては今後とも御指導御鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

財団法人北海道脳神経疾患研究所 理事長
医療法人医仁会 理事長
中村記念病院 病院長

中 村 博 彦